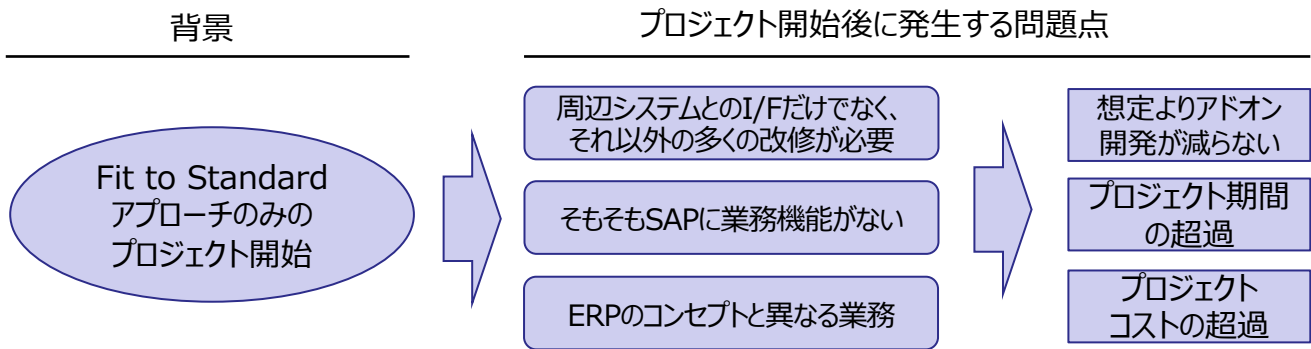


変化対応力強化基幹システム更新 構想策定

変化対応力の強化が求められる基幹システム

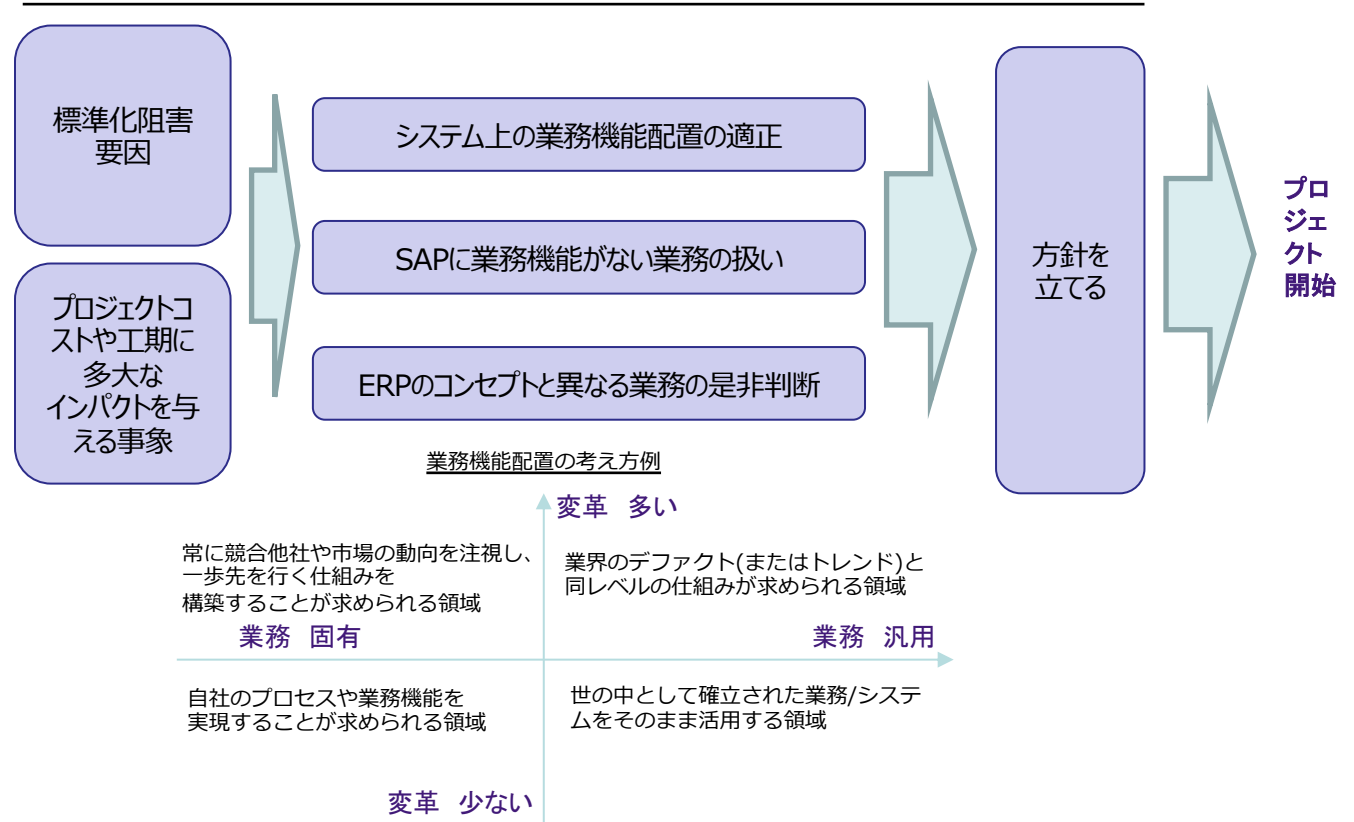
企業変革(DX)が求められる中、基幹システムもその企業変革に即座に対応できることが求められています。SAP基幹システムのHANA化更新のタイミングで、変化対応力強化を目指し、更なる標準化を推進している企業が多いです。しかしながら、当初目的を十分に達成に至らないことや、プロジェクト期間の延長やコスト超過が発生しています。



実現性を高める為には

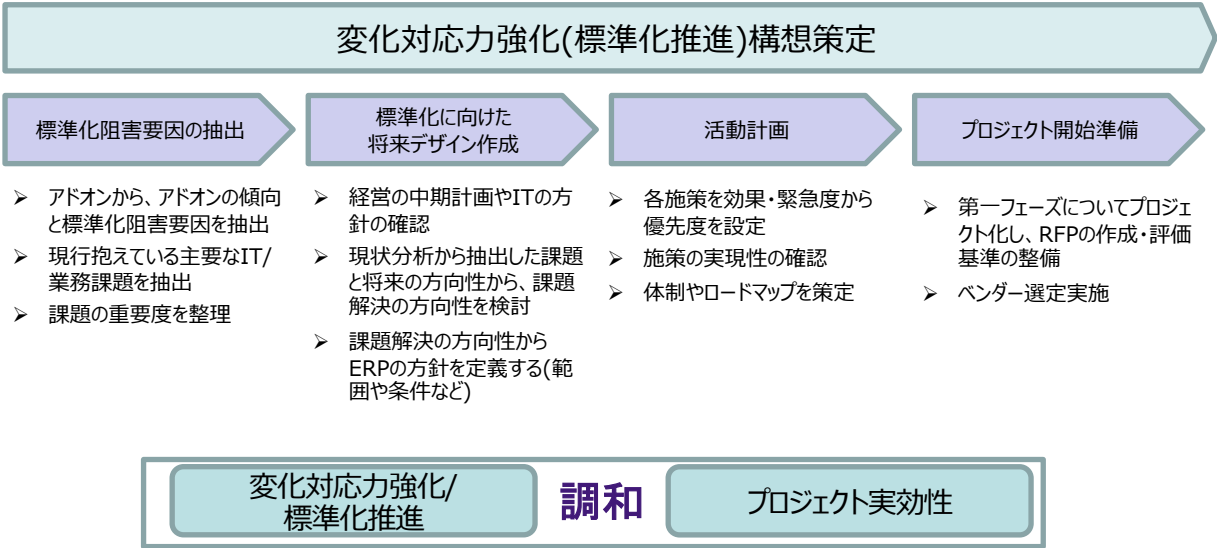
標準化阻害要因やプロジェクトのQCDへのインパクトが高い重要課題は、予め方針を立てることが必要です。具体的には、プロジェクト開始前に、基幹システムだけでなくその周辺システム含めた業務の機能配置が適正か、そもそもその業務は、基幹システムで構築すべきかなどの整理して、方針確定することがプロジェクトの実現性(更なる標準化推進)を高めることができます。

プロジェクト開始前に検討すべきこと



変化対応力強化(標準化推進)構想策定

プロジェクト開始前に変化対応力強化(標準化推進)する構想策定を実施します。特に、標準化阻害要因を抽出し、その対策を事前に検討し、その施策の実現性を確認し活動計画を立て、プロジェクトの標準化の可能性を高めると同時に、プロジェクトの実効性を確保します。



Why QUNIE ?

基幹システムとしての在り方(標準化推進/変化対応力)を理解して実効性の高いプロジェクト計画を作成できることがクニエの特長です。

変化対応力強化	基幹システムとして構築する業務かの判断や、周辺システムとの切り分けを事前に検討して、基幹システムのサイロ化を防ぎ、変化対応力のあるものにします。
標準化推進	Fit to Standardアプローチでは解決できない標準化阻害要因について、対策を検討し確実に標準化を推進します。
実効性のあるプロジェクト計画	検討した施策の実現性を判断し、可能性があるのかを判断した後、計画のロードマップを作成します。(他社のプロジェクトでこれが不十分なものが散見される)